（別紙4（2））

事業所名　第1グループホーム　ハルジオン

作成日：　平成22年12月16日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念が事務所の職員の目につきやすいところに掲げられているが、入居者との間で共有されていない。	事務所内に理念を掲示するのではなく、フロアの入居者がよく目にする場所に変更し、職員のみでなく入居者との共有をはかる。	書道に心得のある方とも連携がとれること、また、ホームが木材を多く使用した和風の作りであることの両面から、和紙に理念を入居者に書いていただき、リビングの最も目につきやすいところに掲示する。	1ヶ月
2	16	トイレの換気が行き届いておらず、一部のトイレから臭いに関して違和感がある。	トイレの換気を徹底し、特にご自身で行かれる方の後等にも適宜実施し、臭気を残さない環境を定着させる。	介助が必要な入居者のトイレ誘導時には換気扇を回すことを徹底し、ご自身で行かれる方や居室にポータブルトイレを置いている方についても随時見守り、窓を開けての換気と換気扇を回すことの両面から実施する。	2ヶ月
3	3	運営推進会議時の地域の方々の参加率・参加人数が多くなっているが、メンバーがほぼ定着しており、新たな意見が出にくい状況になっている。	既存の参加者との関係の維持はもちろん、新たな参加者を働きかけることで、地域とのつながりを強め、新たな意見・提案等を得ることでサービスの質を向上させる。	新たな参加者（今までの参加者、自治会長・市役所の支所長・地元公民館館長以外にも普段からよく利用している近所のスーパーの店長等）を迎えるために、その方の希望日程や時間等を考慮し、参加しやすい環境をつくる。	4ヶ月
4	10	介護計画について概ね実施されているが、内容の周知が行き届いていないところもある。	介護計画作成の段階から現場の職員にももっと積極的に参加を働きかけ、よりニーズ・要望に則した介護計画を作成・実施できるようにする。	月に1度開催しているミーティングのなかに介護計画作成に必要な情報を提供する機会を設け、意見が出やすい環境をつくる。	4ヶ月
5	20	入居者の認知症の程度の面からの自身からの希望、訴えが少ないこともあるが、部屋が画一化されており、馴染みのものが少なく、個性がない。	入居者が自宅で生活されていた頃に使っていた家具や馴染みの小物などで居室を飾り、居心地の良い生活空間をつくる。	入居者の家族にも協力をお願いし、馴染みの家具を持って来ていただき、また、自宅で生活されていたころの習慣等を再確認し、その方なりの居心地の良さを考える。	4ヶ月

注）項目の欄については、自己評価項目の№を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。